

## 中日春秋

「21世紀日本の構想」懇談会の報告書では、刺激的な提言がいくつも盛り込ま

れている。英語の第二公用語化の議論、義務教育週三百制の導入、選挙権の十八歳への引き下げなど「熟読玩味しなきゃいかん」(小沢首相)ものばかりだ▼報告書の基本は「個の確立」である。

二十世紀が組織の世紀だったのに対して二十一世紀は「個人の世紀」だとも書いている。核心部分を引き出すと、「上から下へ」「官から民へ」ではなく、自己責任で行動する個人とさまざまな主体が協同して新しい公を抽出しなければならな

い▼「離れそつに懐こえるが、自立した個人が二十一世紀を動かす原動力になるということだ。そんな一人かもしれない、と名古屋市北区の牧村好貴さんのことが頭に浮かんだ。二年前に環境共生ビル「グリーン・フェロ」を建てた環境NGO(非政府組織)の代表である▼地球の健康を考えたいというビルを案内しながら、牧村さんは「SS運動」について語った。

日本の製造業を世界一にしたのが「SS」(整理、整頓、清掃、清潔、躰)  
なら、牧村流SSは自然との共生をめざす指針だろつ▼SSは英語の頭文字で「スロー／ゆっくり」「スモール／小さく」「セルフライアント／自立・自主・自助」「サステイナブル／持続可能な」「シェアリング／分かち合い・共生」の五つである▼速さと規模の大きさを求めた二十世紀型社会へ反省を促した、新世紀の生き方のヒントにもなるろつ。こつした個人たちが「日本の中のフロンティア」(報告書)を開拓していくのではないか。